

## 国際舞台で磨かれた専門知識



■ 商学部3年  
トー カキ

私は2年生の秋学期から1年間、商学部の箇所間留学プログラムを通じて、カナダのトロント大学に交換留学しました。留学を決意した際、私が最も期待していたのは、英語環境でのコミュニケーション能力の向上と、先進的なプログラミング技術およびデータ解析スキルの習得でした。

トロント大学ロットマン商学部では、ビジネスの様々な分野に特化したプログラムを提供しており、学生が自分の興味やキャリアの目標に合わせて学べる環境が整っています。私は「Data Science in Management」を専攻し、この分野での深い知識と技術を身につけることができました。この専攻では、R言語を使用した機械学習、SQLでのデータベース構築と管理、Pythonでのデータ可視化、自然言語処理、そしてビッグデータに関する授業を受けました。これらの技術的なスキルを駆使して、データ駆動型のビ

ジネス決定を行う方法を学びました。また、ビジネス戦略に特化した授業では、実際の企業のケーススタディをもとに、現状分析と改善策を提案するプロジェクトに取り組みました。これにより、理論だけでなく実践的なスキルも身につけることができました。

トロント大学ではグループワークが重要な要素となっています。ほとんどの授業で、プログラミングの課題やプレゼンテーションがグループで行われました。これにより、異文化の学生たちと協力することで、異なる視点を学び、コミュニケーション能力を大いに伸ばすことができました。また、チームでの作業はリーダーシップのスキルも鍛えられ、自分の能力をさらに向上させる良い機会となりました。

学問的な成長だけでなく、課外活動にも積極的に参加しました。特に「Language Exchange」サークルには積極的に参加し、英語

だけでなく、他の言語にも触れる機会を持ちました。サークルでは、毎週異なるテーマでディスカッションを行い、自然と語学力が向上していくのを感じることができました。さらに、ハロウィンやクリスマス、学期末には特別なパーティが開催され、学生たちが一堂に会して楽しむ時間も多かったです。これらのイベントは、留学生活のストレスを解消し、友情を深める素晴らしい機会でした。

このように、トロント大学での1年間は、学問的な面でも、文化的な面でも、人間関係の面でも、私の人生において忘れられない貴重な時間となりました。留学は単に学ぶだけの場ではなく、自己成長の場であり、新たな世界を発見する旅でもあります。私の経験が、これから留学を考えている人々にとって、少しでも参考になれば幸いです。

## チャレンジにあふれた留学



■ 商学部3年  
鎌田 祐輔

私は2年秋学期の1学期間、商学部の箇所間留学プログラムを利用し、フィンランド・ハンケン経済大学に留学しました。同校は首都ヘルシンキにある北欧最古のビジネススクールの1つであり、現地の学生をはじめ、世界各国から留学生が集まります。

私は日本とは全く異なる北欧の経営体制や組織運営を現地で学びたい、世界幸福度ランキング第1位のフィンランドに身を置いてみたい、という2つの理由から同校に留学することを決めました。

大学では主に北欧企業の組織運営と国際マーケティングの授業を履修しました。この2つの授業では講義以外にグループディスカッションやプレゼンテーション、論文や参考資料をもとにした課題があり、それまで英語で専門的な勉強をする機会がなかったため授業開始当初は授業方式の違いや英語での討論・専門的内容の論文読解の難しさに困惑し、授業についていき、自発的に発言することに難しさを感じました。しかし、これから国際社会のよりハイレベル

な世界で活躍したい、限られた留学先での学びを最大限に活用したい、という思いから時間を十分にかけ丁寧に課題に取り組むことでできるだけ多くの知識をインプットし、積極的にディスカッションに参加することで意識的にアウトプットするよう心がけました。また、ほかにも地域社会貢献の授業も履修し、自由度の高い授業であったため、グループでの老人施設訪問活動のほかに観光案内を自主的に行ったり、現地の人と文化交流をしたりし、授業を通じて異文化理解をしながら日本の良さを広めました。

さらに、留学生向けのイベントに参加してフィンランド国内の北極圏に行ったり、多くの国の多様な文化や慣習に触れることで自身の見聞を広めたいという思いからフィンランドのほかに6か国へ旅行をしたりしました。主に現地でできた友達と行くことが多かったのですが、もともと海外で一人旅をしてみたいと考えていたため、イギリスとフランスには一人旅にも挑戦しました。特にフランスの郊外では英語が通じないことも

多く、バスの停留所がわからないときにコミュニケーションが取れなかったのですが、現地の人が何とか意思疎通を図ってくれようとしてくれ、海外で人の温かみを感じるとともに、一人でもなるようになるという気持ちを得られました。

留学全体を通して、異なる価値観や文化を楽しむことの大切さを感じるとともに、自発的に様々なことにチャレンジすることで見えてくる世界があるのだということを実感しました。実際、多くの新しいことに飛び込んだことで自信にもつながり、これは今後社会に出たときにも役立つと信じています。

最後に、留学をするとなると漠然とした不安からためらってしまう方も多いと思いますが、留学を通して何か必ず得られるものがあり、それは今後の人生の選択肢を広げてくれます。商学部の箇所間留学はグローバルな環境で1人の国際人として日々刺激を受けながら学ぶことができます。迷っているならとりあえずチャレンジしてみよう精神で応募してみてください!